# 日本中国語学会々報　2013年8月

http://www.chilin.jp/

◆目次◆


ご挨拶……1
支部例会実施報告　2012.12-2013.7……2
会議報告……10
全国大会および例会開催のお知らせ……14
選挙公示……15
事務局からのお願いとお知らせ……15


## ご挨拶

古屋昭弘（日本中国語学会会長）

会員の皆様の温かいご支援のおかげで、早稲田の事務局も無事２年目を迎えることができました。いろいろと段取りが悪くて、６月に出るはずのニューズレター「春の号」が「秋の号」となってしまい誠に申し訳ありません。

昨年来、学会事務を進めるに当たり、ふたつの目標を立てました。第一は新体制の定着です。前事務局の大変なご努力の結果、オンライン会員情報管理システム（e-naf）を始め、学会全体の体制が相当完備されました。この体制をしっかり定着させ、役員諸氏、各委員会そして事務支局と密接な連携を取りつつ、安定した運営を維持していくことが何よりも重要だと思っています。

第二の目標は経費の削減です。その一環として以前から懸案となっていた支部例会通知のハガキ廃止の方向を昨年の評議会や総会で承認していただき、今年の５月、全会員にハガキ郵送継続の要不要をお伺いしました。その結果に基づき、この９月以降の例会通知については、継続ご希望の方を除き、ハガキの郵送がなくなります。今後はメールによる通知が中心となります。ご諒解のほどどうかよろしくお願い致します。

もちろんひたすら削減するわけではなく、研究の発展や外部への発信に役立つ面に関してはどんどん予算を付ける方針で進めています。入会申し込みの方にはすぐに歓迎の挨拶状と振込用紙を送るという試みも始めました（従来は郵便局備え付けの用紙を使用）。

前回のニューズレターでお伝えしたとおり、本学会の顧問、鐘ヶ江信光先生が昨年 12 月、享年 100 歳でご逝去されました。直接お話したことこそありませんが、先生の『中国語辞典』や『中国語のすすめ』を通して大きな学恩を受けています。心よりご冥福をお祈りいたします。

今年の大会は、その鐘ヶ江先生に縁の深い東京外国語大学で、10 月 26 日（土）と 27 日（日）の二日間にわたり開催されます。開催校と大会運営委員会の各位のご尽力により、着々と準備が進んでいます。プログラムを同封いたします。どうか万障お繰り合わせのうえご参加ください。

## 支部例会実施報告　2012.12-2013.7

### ◆北海道支部例会

◇2013 年 3 月 23 日（土）北海道大学

・ 邱林燕（北海道大学・院）：中日受身の対照研究

・ 中国語と日本語の受身使用には様々な制限がある。

中国語：我的钱包被小偷偷了。　cf.　我被小偷偷了钱包。

日本語：＊　地下鉄で私の足は誰かに踏まれた。cf. 地下鉄で私は誰かに足を踏まれた。

中国語：＊　半夜，我被孩子哭了。　cf.　半夜，我被孩子哭醒了。

日本語：夜中、私は子供に泣かれた。

中日両言語とも自動詞、他動詞の受身が存在する。しかし、中国語の受身と日本語の受身の成立には異なるメカニズムが働いている。本研究は両言語受身の成立を「他動性」と「受影性」に基づき検討し、両言語受身の成立メカニズムを究明することを目的とする。

・ 羅沢宇（北海道大学・院）：母语干扰的逆向过程——日语学习者的母语汉语变化

母语干扰是二语习得研究中比较热门的一个领域，大家在学习新语言的过程中也常深有体会。但它的逆向过程——新语言对母语所造成的影响，却始终没有得到太多研究者的关注，连作为当事人本人的外语学习者，通常也没有意识到这一点。本次报告首先简单地介绍该领域为数不多的先行研究，然后引入包括鲁迅作品等中出现的词汇、语法、篇章方面的实例，以及笔者在中国所做的汉语用法正误调查，对该现象进行一个初步的分析，并思考该现象的成因和机制。同时，也会讨论一下汉语在受日语影响过程中的特殊性。最后，报告会总结目前已知和未解决的问题，并对本研究有可能对目前已有的翻译理论、习得指导、辞书编辑等所造成的影响做一个概观。

・ 根岸美聡（北海道大学・院）：浙江臨海方言における“拨”の用法

本発表では、臨海方言で用いられる“拨”という機能語について、発表者の記述したデータを基に、その用法を分析し、意味拡張のプロセスについても推定を試みる。具体的には、臨海方言の“拨”は介詞として①授与目標②受益者③執行使役文（処置式）の被使役者④使役文の被使役者を導く用法を担うが、これらの用法に見られる意味上の、あるいは形式上の制限を整理し、さらに〈与える〉等の意味を表す動詞としての用法からの意味拡張のプロセスについて推定を試みる。また、普通話の“给”との違いや、臨海方言以外の呉語で類似の機能を有する“拨”およびその他の介詞との違いについても言及する。

・ 熊娟（北海道大学・JSPS 外国人特別研究員）：《佛說安宅神咒經》整理及相關考查

漢文佛典《佛說安宅神咒經》除了刻印本、敦煌寫本，目前還發現有日本金剛寺古寫本，比較發現刻印本、敦煌寫本、金剛寺寫本應該看作三種異本。本文依據國際佛教學大學院大學提供的圖像資料，對金剛寺寫經進行校錄整理。然後圍繞該經進行如下考查：第一、從經文中心內容以及中國特有文化語詞的使用判定該經的性質是中國人編撰的疑偽經。第二、從經典形態推測金剛寺寫本代表的異本是最初形態，敦煌寫本、刻印本代表的異本則是在金剛寺寫本的基礎上增刪修訂而成。第三、從金剛寺寫本中“非禍”“俗身”“某甲”“六道”“四生”等語言現象考訂該經的產生可能不

會早於東晉。第四、對敦煌寫本中“慎護”一詞從梵語來源、詞義、結構關係詳加討論。

・ 戸内俊介（日本学術振興会特別研究員 PD・東京大学）：西周時代における非現実モダリティマーカーの「其」

戸内俊介「上古中国語における非現実モダリティマーカーの“其”」（日本中国語学会『中国語学』258 号，2011 年 10 月）で，筆者は春秋戦国時代の副詞「其」を取り上げ，これが非現実（irrealis）モダリティマーカーであるということを論証した。本発表では，さらに古い時代である西周期の資料，例えば西周金文や西周甲骨文の出土資料，及び『尚書』『毛詩』といった伝世文献を材料に，そこに見える副詞「其」について取り上げる。結論としては，西周期の副詞「其」もやはり，irrealis という視点から矛盾なく解釈できるが，その意味機能は春秋戦国時代のものとは幾分異なったところがあるということを論じる。

## ◆関東支部例会

◇2012 年 12 月 15 日（土）拓殖大学

・ 佐藤富士雄（中央大学）：「有没有＋後続成分」反復疑問形式の「後続成分」と２音節動詞の名詞的用法について

中国語の反復疑問形式「有没有＋後続成分」の「後続成分」は，品詞面から見ると名詞句，名詞＋動詞句，動詞句，名詞か動詞か識別が難しい２音節語，形容詞の５種類に大別される。ところが，名詞句や「名詞＋動詞句」から成る後続成分の名詞の中にも，動詞性の２音節語（２音節動詞）が散見される。それらの２音節動詞は，依然として動詞と見なすべきなのか，それとも名詞（動名詞）と見なすべきなのか。《北京大学现代汉语语料库》の用例と《现代汉语词典》の記述を基に考えて見る。

・ 浅井澄民（拓殖大学）：『（旧本）老乞大』句末の“有”とチベット語の句末助動詞 ^yöö/^duu の類似性――存在動詞の文法化と言語主体位相の叙述

いわゆる「漢児言語」句末の“有”については，従来多く蒙古語との対訳資料から考察されてきたが，その機能についてはまだ明確になっているとは言い難い。本発表では，チベット語の句末助動詞^yöö/^duu（存在動詞が文法化したもの）の用法について紹介し，その機能――言語主体位相の叙述――が『（旧本）老乞大』句末の“有”と類似していることを検証する。『（旧本）老乞大』の言語を蒙古語の直訳ではなく，元代北方（北京）における漢児言語（広義の“漢兒”間における共通語，漢族・異民族共用の“Pidgin-Chinese”の如きもの）としてとらえる立場から，句末“有”の機能について再検討を試みる。

・ 青木萌（神奈川大学・院）：現代中国語の時態成分“在”の論理的意味分析

本発表は“楼下是不是一个，自个儿在喝茶的少奶奶？”（一階に一人でお茶を飲んでいる奥さんはいますか？）（テレビドラマ《京华烟云》第 26 集，25:39）の文における“在”の意味役割を考察した。その結果，“在”は「～が～において～という様態にある」という文型意味により［進行］の意を表わすということを明確にする。即ち，“在”は複数の小画面を空間的に列挙して一つの大画面を構築すると解する。また，前置詞の“在”と副詞の“在”がいずれも［進行］の意を示す時態成分となることができると考え，両者の違いは空間概念の抽象度にあるということを提案する。

◇2013 年 4 月 27 日（土）日本大学

・ 大野広之（慶應義塾大学・非）：『大藏全咒』にみられる普賢菩薩真言陀羅尼についての一考察

発表者は昨年度本学会関東支部例会において、文殊菩薩にまつわる真言陀羅尼について『大藏全咒』所収のテクストをめぐって考察を加えたが、本発表では、十三佛信仰の観点から普賢菩薩に関する真言陀羅尼について満漢二体を中心にして考察を加えたい。普賢菩薩真言の特徴は、日常の勤行において読誦され広く知られている光明真言と同じく親しむ機会が非常に多い真言という点にある。発表の際には、従来の漢訳表記と『大藏全咒』にみられる満漢二体との比較を通じて得たものについて考察を加えたい。

・ **許征（国書日本語学校）**：京剧韵白中“入声字”实验研究

京剧韵白中有一些字尚残留着“入声”发音的特征，有些演员和学者将这些字曾认作是“入声字”，甚至认为京剧韵白声调体系中包含“入声调类”。本研究通过以专业京剧演员的发音为语料进行语音实验分析来证明，京剧韵白中这些字已不具备入声字的完整发音特征，且这种发音也几乎也已不具备区别意义的功能，无法形成一个独立的调类。演员们在念这些字时所采用的方法我们姑且称为“残入声发音法”，此种发音法客观上丰富京剧韵白的艺术表现力。

◇2013 年 5 月 25 日（土）青山学院大学渋谷キャンパス総研ビル 11 階 19 会議室

・ 山田忠司（文教大学）：北京語の特徴について―太田先生提示の 7 特徴を巡って―

太田辰夫先生が北京語の特徴として 7 点を提示されたのは 1969 年刊行の『中国語学新辞典』であった。恐らくは紙幅の制限故であろうが、そこには結論として得られた内容のみが述べられている。例えば、第 4 の特徴として挙げられている「北京語では助詞「哩」を用いず、「呢」を用いる」という点に関しては「『紅楼夢影』の語法」1989 で詳細に述べておられる。またどのような資料について調査されたかについては「清代北京語の資料について」1951 がある。本発表では太田先生が取り上げなかった資料を含め、筆者の調査結果を報告したい。

・ 陳暁（北京大学／早稲田大学・院）：清末民初の副詞「所」について

清末民初の文献には「所」には副詞として「所＋VP」という用法があり、「まるで・全く・すっかり」という意味であった。その諸特性について発表者は最近『中国語文』所掲論文で論じたが、本発表ではその後調査し得た資料に見える用例について論じる：１）『清文啓蒙』などの満漢合璧の文献。２）『老乞大』などの朝鮮時代教科書。３）清朝末期の西洋人が編んだ中国語教科書。４）民国以降の北京語に関する辞書。５）『何喜珠』などの清末民初白話小説。６）九江書会本『官話指南』。

・ 姚伟嘉（同济大学）：《官话急就篇》《急就篇》词汇比较研究

宫岛大八编写的《官话急就篇》及其修订本《急就篇》是日本近代汉语教学史上最具代表性、影响力最大的教科书之一。两书出版相隔近 30 年，正是研究 19 世纪末至 20 世纪初汉语口语面貌的珍贵“同时资料”。本文穷尽考察了二书异文，结合时代相近的朝鲜汉语教科书和中国本土白话小说，发现《急就篇》除增加了不少新生名物词外，还将原来《官话急就篇》中较为通俗、带有方言特色的词语改为相对正式的通语表达。作出这样的修订，显然是为了便于赴华日本人在除北方外的地区进行汉语交际。

◇2013 年 7 月 6 日（土）拓殖大学

・ 永江貴子（拓殖大学）：現代中国語における量詞“台”について ～量詞“辆”との比較から～

近年、中国大陸においていわゆる普通話の説明の枠組みから外れた語・用法が確認される。例えば“有去吗？”が「行ったことがありますか」とい

う意味で用いられる場合がある。この“有+VP”の形式で経験を表す用法は従来の普通話の枠組みから逸脱する用法だが様々な場面で観察され、これは台湾の影響等と先行研究で指摘されている。本発表では量詞“台”が“辆”のように車の量詞として用いられる例を中心に取り上げ、使用頻度の調査やネイティブへのインタビューをまとめ、それに分析を加えた結果を述べていく。

・ 星健一（中央大学・非）：略語構成過程における序数の位置決定について――実現しない序数の後方移動――

略語の中には“第一实验小学”を原形とする“实验一小”など構成過程で序数が移動する例があるが,序数の移動は字の残留と消去の選択がなされた段階（上の例では“一实验小”）で序数が一定の位置にあるものに生じうる。昨年度本学会では,序数が一定の位置にあるもののみを観察し，序数の位置決定が二段階でなされること，第一段階では序数の前方への移動が,第二段階では後方への移動が生じうることを提示した。本発表では観察対象を広げ,序数の残留する略語一般から序数の位置決定を考察する。考察の結果，位置決定の第一段階では序数の後方への移動が実現することはないものの,後方への移動をもたらす作用自体は存在すると考えられる。

## ◆関西支部例会

◇2012 年 12 月 2 日（日）大阪産業大学梅田サテライトキャンパス

・严馥（大阪大学）：“把”字句和“被”字句的不对称-与补语的关系-

本文探讨的是“把字句”和“被字句”这两种句式里补语的不对称关系。“把字句”和“被字句”从影响性的观点来看可以互换,但在表义方面并不一致，而且在补语的选择上也出现不对称的现象。常出现的补语类型有“VC”和“V 得 C”。两者均能成立的情况下,“被字句”能和两种补语相呼应（姐姐被弟弟气哭了 / 姐姐被弟弟气得哭了）。而“把字句”只能后接“VC”结构(弟弟把姐姐气哭了 / *弟弟把姐姐气得哭了）。本文先分析了“把/被”字句里的补语的分布情况,再试图以句式里的作用力说明其原因。

・金昌吉（大阪大学）：数量限定与偏误分析

本文要讨论的是日本学生在学习汉语时所出现的数量限定的问题。实例一：三个学生来到了学校。在这里,主语和宾语位置的不同以及有定、无定的对立，可以说是影响语言表达正确与否的重要因素。实例二：种种的食物我都吃过。与数量相关的词语有数量范围大小的不同,也有具体使用时的句法限制的不同。实例三：我买了书。有些学者认为,某些句法位置对数量词的使用具有强制要求。但实际上,这里最根本的问题并非数量词的使用，而是数量限定的问题。汉语中数量限定的问题，表面上看来只是一个句法表现的问题,但实际上这个问题也牵涉到语义和语用的相关因素。本文的目的就是想找出句法层面背后的语义限制以及认知机制。

・島津幸子（立命館大学）：“等Ａ，Ｂ”構文における“等”の文法化

“等”という語は「待つ」という動作を表す動詞の意味の他に,複文形式の前節に用いられて時間的限定節を構成する機能語の意味をもつ。《现代汉语八百词》では(a)“等下了雨就追肥。”(b)“等我走到老张床前的时候，才发现他已经睡着了。”といった例が挙げられている。当該構文の文の多くで主語の脱落が見られるが,(a)では“我等下了雨就追肥。”のように主語を補うことができ，“等”の動詞性が残るのに対し，(b)では意味的にも主語を補えず，その動詞性はかなり弱い。“等Ａ，Ｂ”構文における“等”は機能語ではあるものの,その文法化はこのように一様ではない。まさに中間段階にある“等”の文法化に関わるさまざまな言語事実を

分析する。

・秋谷裕幸(愛媛大学):现代汉语方言的“闻”义词和“听”义词

“闻”义词和“听”义词都是 Morris Swadesh 200 个基本词之一。由于这两个词的词义和演变息息相关，我们最好同时研究它们。本文初步整理现代汉语方言中“闻”义词和“听”义词的各种说法及其分布并进行相关问题的讨论，以为这两个词的历史研究提供现代方言材料方面的基础。本文主要分析 6 种“闻”义词：“嗅（许救切）”；“嗅（香仲切）”；“闻”；“鼻”；“听”；“芳”和两种“听”义词：“闻”；“听”。

◇2013 年 6 月 16 日（日）大阪産業大学梅田サテライトキャンパス

・**肖海娜(神戸市外国語大学･院)**：日汉名词性偏正结构类型独词句初探

关于日汉独词句的对比研究语言学界的一个不争的结论是“日语独词句能产量相当高，汉语独词句能产量不高”（井上 1999，中川 2005）。比如日语可以说：「いい天気!」「綺麗な靴!」汉语却不能说“＊好天气！”“＊漂亮的鞋！”。本文就将分析对象聚焦于上述名词性偏正结构类型独词句，指出虽然像“＊好天气！”这样的说法不成立，但是我们说“多好的天气（啊）！”，“好漂亮的鞋！”（郭中平 1957），“这个讨厌的东西！”，“倒霉(的)孩子！”等。本文着眼于语言事实，指出汉语独词句的能产量不低。同时以语言事实为基础，探讨汉语独词句体系成句规律，进而窥视日汉独词句本质差异。

・姚碧玉（神戸市外国語大学・院）：現代中国語の剰余否定と語彙の関係の再検討

本稿では、「差点儿」「几乎」「险些」「难免」という副詞を取り上げ、現代中国語の剰余否定と語彙の関係を考察する。「差点儿没 VP」の構造と意味に関する問題の原因として、述語動詞の語彙レベルの意味が大きく結果事態の予測に影響すると主張する。その上で、構造と意味のずれの原因については、データ分析の結果、特に VP が望ましさに関わらない場合、先行文脈が結果事態の肯定･否定の解釈を決定していることが分かった。また、一般的な VP の望ましさに反する例はテストの結果、容認されないことが解明した。以上を踏まえ、「几乎」「险些」「难免」も同様に考察を行った結果、VP の望ましさのほか、多様な状況が確認される。

・西村英希（神戸市外国語大学・院）：大量三音节词的崛起与其意义

在汉语教学中，人们常会提到，现代汉语词以双音节词为主，或者说汉语词的运用有着明显的双音节化倾向。但近年来的《中国语言生活状况报告》表明，三音节词占有新词语的绝对优势比率，并有越来越多的倾向。刘楚群(2012)曾运用“模因”理论，对三音节词大量出现的机制和社会背景加以分析。本文拟在刘楚群(2012)的基础上，从两个方面对三音节词大量涌现的理据再做分析：一是从语言系统内部规律的角度，探寻三音节词的韵律特征及汉语词汇系统中原有三音节词的特点，并对新旧三音节词进行比较，说明三音节词大量出现的内在根据；二是从社会与语言的互动关系的角度，探寻某些三音节词的表述特点及其对社会心理的映现和影响，说明三音节词大量出现的外在动因。

・張恒悦（大阪大学）：一边 A，一边 B 構文について

「一边 A，一边 B」構文に関する先行研究は多く見受けられる。しかし、そのほとんどが現代中国語の資料に基づく共時的な研究であり、通時的視点からの考察はなされてこなかった。同時進行を表す「一边 A，一边 B」構文は上古中国語になく、唐代において接続詞「一边」の文法化に伴って出現した文法現象である。本発表は、通時的な視点から「一边 A，一边 B」構文の出現に至るまでの手がかりを辿ることにより、その形成過程及びメ

カニズムを明らかにした上で、「一边 A，一边 B」構文における認知的特徴を抽出したい。

## ◆九州支部例会

◇2012 年 12 月 15 日（土）熊本学園大学

・侯仁鋒（県立広島大学）：中国語検定試験 3 級の発音部分の測定についての一考察

中国語検定試験 3 級は、筆記試験において 41 問のうち、発音を測定する問題が 10 問もあり、率にして 24.3%占めているので、発音重視の意図が伺える。中国語発音の言語構成の規則と日本学習者の間違いやすい点を出題の基本として出された課題は、試験の妥当性が高く維持されている。一方、試験の妥当性と信頼性を些か損ないそうなところに 3 点気づいた。1. 漢字語からピンインを無視して直接に声調を測る問題は初級者にとってふさわしい形式とは言いがたい。2. ピンイン表記の課題では、中国語にありそうもない音節を無理やり作り出して、言語構成の規則に反する例が多く見られる。3. 選択肢に変量個数が多いので何を測ろうとするかが不明確になる。

・羅濟立（台湾東呉大学日本語学科）：日客對譯『廣東語辭典』(1932 年)に反映された台湾北部客家語としての一側面

本発表は『廣東語辭典』（1932 年、以下『辭典』と略す)に反映されている台湾北部客家語の音韻特徴について記述したものである。苗栗四県音との比較を通じて、『辭典』に反映されている北部四県音は典型たる四県音ではなく、海陸方言も参入したいわゆる「四海話」の一種と考えられる。すなわち、『辭典』四県は強勢を持つ海陸音に影響を受けた「四海話」であり、音韻変化のカギは海陸音の舌葉音である。ただし、rh に浸透されておらず、はっきりした唇音＋i と唇音＋ui の対立、gie／ge と gai／giai の対立もないことから、その変化は自由変異の段階、一種の過渡的中間的状態を経たと考えられる。

・王一萍（熊本学园大学・院）：艾约瑟记录的 19 世纪上海方言动词—以单音动词为中心

英国传教士艾约瑟 （J. Edkins）所著《上海方言词汇集》（A Vocabulary of the Shanghai Dialect，初版 1869）等著作是使用科学方法比较全面地记录 19 世纪上海方言实况的著作。其中有不少极具特色的单音动词，如： 抢 'ts'iang、嗡 h'ih、舀 'yau、缚 vóh、掮 kien、着 tsáh、担 tan、掼 gwan‘、稀 h'í、掇 töh、闪 sén‘、隐 'yung 等，本文以此为中心，联系各种明清时期以来的历史文献和研究著作，并结合现代的上海方言，加以整理、归纳、分类，并探究其来源和演变。

・王慶（九州外国語学院専任講師）：指示代名詞の多様な解釈

指示代名詞「谁」に疑問を表す用法があるということは、中国語母語話者の衆目の一致するところであろう。しかし、「谁」がなぜ疑問を表せるのか、そして、疑問以外に平叙文において「ある人」という不特定の意味、あるいは、「すべての人」という全称の意味を表す用法もあるということについては、これまであまり言及されてこなかった。そこで、本発表では、これまでの先行研究を基に集合という立場から「谁」には 2 種類の統語構造があることを提案する。「谁」の多様な意味解釈は、その異なる統語構造と「都」，「一起」、そして文末に生起する語気助詞「吗」，「呢」との総合作用で生まれるものであることを指摘する。

・趙葵欣（関西学院大学）：武汉方言句尾“它”字句考察

武汉方言里有一种在句尾用第三人称单数“[$t^h$a]”（本文记作“它”）的句子。主要有三种形式：(1)与受事标记共现的“把”字句。如“把窗户关它”；(2)没有受事标记的宾语前置句，如“盘子收它”。（3）表示听任、任凭的“尽他去

冻病它”。前两者都表达对听话人的要求或希望，也就是一种表达祈使的处置句。第三类则表达说话人不满的听任情绪。前两类动词部分有三种结构：①光杆动词；②动词后带“了”；③带有结果补语。第三类则要求动词部分必须有结果补语同现。句尾“它”在这三类句式中指代功能都已减弱，主要承担的是完句和舒缓语气功能。文章最后还指出，这种句尾复指代词句在汉语方言中广泛存在，但内部差异很大，“它”的功能也表现迥异。

・宮下尚子（熊本大学・非）：『元刊雑劇三十種』および『五代史平話』等元代資料における複数表示接辞〈每〉

人称代名詞に後接する複数表示接辞に関して、太田辰夫『中国語歴史文法』（江南書院、1958 年）には以下のような記述がある。「元代では宋代からある《門》のほかに《每》も用いられる。前者は南方で、後者は北方で用いられた傾向がある。」（111 頁）「《咱門》という南方の表記法に對し、元代の北方では《咱每》が普遍的に用いられた。この《咱每》あるいは《咱門》の合音が《喈》である」（112 頁）。『元刊雑劇三十種』における複数表示接辞は主に〈-每〉であるが、上の記述とは異なり、〈咱每〉は１例が見えるのみ、その他の１人称、２人称へ後接する〈-每〉も〈俺每〉〈您每〉〈你每〉が僅かに見えるのみで、元末の資料とされる元代漢語本老乞大の使用情況とも大きく異なる。このことが、〈-懣〉＞〈-每〉＞〈-們〉の通時的変化においてどのように位置づけられるか、『五代史平話』等の雑劇以外の元代資料も参照しつつ検討する。

・李孟娟（熊本大学・院）：中国語の再帰動詞の分類について

動作の結果、動作の主体に変化の生じる他動詞を『再帰動詞』と呼び語彙的に再帰的な意味をもつ他動詞の下位分類とすることが、仁田(1982)以降、日本語学では定着している。本発表では、「再帰動詞」という概念が中国語学にも援用できることを、使役構文や授益構文の分析を中心に論じる。同様な先行研究を参照した上で、中国語においても、再帰動詞と再帰用法をもつ非再帰動詞の分類が必要なことや、これらの動詞が他動性の低い他動詞の下位分類とみなしうることを主張する。

・山口要（熊本学园大学・院）：从马礼逊《字典》看 19 世纪汉语标准语音

马礼逊《字典》的语音有以下特点：第一，保留尖团的区别。《字典》中的舌尖前音声母及舌根音声母在齐齿呼、撮口呼韵母前没有变成舌面音。第二，保留 g 声母，但是只用在 ae、an、ăn、ang、aou、ĭh、o、ŏ、ow 韵母前，并限于中古疑母、影母字。第三，保留 eŏ、yŏ 韵母。不用 euĕ、yuĕ 韵母用 eŏ、yŏ 韵母也是《字典》的特点，如：觉 keŏ、约 yŏ。有这种异读的只有中古宕摄三等药韵、江摄二等觉韵的字。第四，中古音曾摄佳韵和皆韵字中保留 eae 韵母，如：阶 keae、谐 heae。第五，从中古音的类别来看，《字典》声母、韵母与声调与中古音的对应关系比现代标准语要整齐。

◇2013 年 7 月 13 日（土）九州大学　伊都地区比文言文棟 321 室

・浅野雅樹（下関市立大学）：語彙学習用中国語中級テキストの一課分の構成とその試作例について

日本の大学で使用される中級レベルの中国語テキストは、中国の社会や文化などへの理解を高めるための課文を中心に編成された総合教材が圧倒的多数を占める。ヒアリング用、文法用、読解用といった内容を限定した教材も一部見られるが、使用者の語彙学習を中心に作成されていると見なせるテキストは非常に少ないという状況がある。本発表では、まず語彙教育に関する現状の課題について指導面、学習面、学習環境面の三つの側面から述べる。そして語彙学習用中国語中級

テキストの作成について考察を行った上で、テキスト一課分の構成とその試作例を示す。

・王一萍（熊本学園大学・院）：19 世纪上海方言的“拨”字结构——以艾约瑟（J. Edkins）的语料为中心

上海方言中的“拨”字既是动词，又是介词。从语义和用法上来看，类似普通话的“给”，关于两者的异同，以及“拨”字结构在上海方言中演变的历史，即历时的研究已有诸多论述。本文以艾约瑟（J. Edkins）的两部著作：《上海方言口语语法》（*A Grammar of Colloquial Chinese, as Exhibited in the Shanghai Dialect*，初版 1853，第 2 版 1868）及《上海方言词汇集》（*A Vocabulary of the Shanghai Dialect*，初版 1869）为主要语料，结合稍晚时期的《沪语指南》（上海美华书馆，1897）、《土话指南》（上海土山湾慈母堂第二次印，1908）等相关作品中的用例，集中讨论 19 世纪上海方言“拨”字结构的句法特征。

・山口要（熊本学園大学・院）：ウィリアムズの『漢英韻府』から見た１９世紀の官話音系

本発表では中国語音韻史の観点からウィリアムズの『漢英韻府』（Samuel Wells Williams, 1874, *A syllabic dictionary of the Chinese language*。2001 影印本 : London: Ganesha Publishing.）の官話音系を取り上げる。主な特徴として、第一に、いわゆる「尖音」、「団音」の区別が保たれている。第二に、ng 声母を持っている。それは中古音の疑母字、影母字に限られる。第三に、ioh(yoh)韻母を持っている。それは中古音の宕摂三等薬韻字、江摂二等覚韻字に限られる。第四に、iai 韻母を持っている。それは中古音の蟹摂佳韻字と皆韻字に限られる。第五に、中古音の咸摂、山摂開口二等荘組字と三等章組字において韻母が異なる。第六に、中古音の通摂合口一等明母字、三等非組字と通摂合口一等並母字、梗摂開口二等幇組字、及び曾梗摂開口三等知系章組字を区別する。『漢英韻府』の官話音系の特色は、声母、韻母、声調のいずれの点においても現代北京語に比べて中古音に対応している点が多いことであるが、モリソンの『字典』やメドハーストの『華英字典』と比較すると、対応している点は僅かに少ない。

・王慶（九州外国語学院）：中国語語気助詞連続使用の語順制限趙葵欣（関西学院大学）

文末に生起する中国語の語気助詞「的，了，呢，吗，吧，啊」には、連続使用の制限があると言われている（胡明扬 1981, 朱德熙 1982, 胡裕树 1992, 张谊生 2000 など）。例えば、「还够吃三个月的呢！」は言えるのに対して、「*还够吃三个月呢的！」は言えない。「怎么，你已经知道了啊？」は言えるのに対して、「*怎么，你已经知道啊了？」は言えない。本発表では、そういった語気助詞の連続使用に関わる現象を考察し、その裏にある規則性を模索する。

・李慧（九州大学・院）：日本語「たら」と中国語“呢”の対照研究―仮定条件文中の機能を中心に―

本発表は日中両言語の仮定条件文について対照研究を行うものである。管見の限り、従来、日本語「たら」と中国語“呢”の両者を対照する研究は見られない。今回の分析によって次のような知見が得られた。両者を文中の位置から見れば、日本語の接続助詞としての「たら」は一定の条件下で文中から文末へ移動し、終助詞化しており、これに対して、中国語の語気助詞としての“呢”は文末から文中に転じて、次第に接続助詞化していると判断される。また、文の焦点から見ると、両言語は共に主節から従属節へ転化していると言えよう。今回の発表では、その原因を日本語と中国語の言語構造から解明したい。

・張晨迪（九州大学・院）：中国語の「有些Ｎ」目的語前置総称解釈構文

中国語には、次のような構文がある。

(1) a.［有些人］不值得　爱。　b.［有些人生］不必　看懂。

上の文では、「有些N」が意味的に目的語を担い、また文の解釈としては「誰にとっても」という総称解釈が得られる。本発表は、この構文を研究の対象とする。(1)が示すように、この構文は、能願動詞を含む場合が多い。そのような場合、肯定文も成り立つが、「不」と共起すると、さらに座りがよくなる。また、能願動詞を含まない場合、「无法」とよく共起する。

(2)［有些记忆］　无法　抹去。

「无法」は可能性を表すという点では能願動詞と同様の働きを持っていると考えられる。さらに、この構文は英語の tough 構文と似た側面があるため、研究の上で、何かの手がかりになるかと期待される。

## 会議報告

### ■ 編集委員会

◆2013 年度第 1 回編集委員会(『中国語学』260 号)

日時：2013 年 3 月 20 日（水）13 時～17 時

場所：東京大学駒場キャンパス 18 号館コラボレーションルーム２

出席者：小野秀樹（委員長）・石村広・佐々木勲人・沈力・中川裕三・中西裕樹・松江崇（委員）：［欠席］朱春躍（委員、海外出張のため）

【議事】

１．260号の特集の依頼原稿について

特集は、「韻律語法学」をテーマとし、冯胜利教授（香港中文大学)、吴为善教授（上海師範大学）に執筆を依頼することとした。編集委員会としては特集論文を計３本予定しており、３本目は冯教授にご推薦頂くべく依頼することとした。

２．『中国語学』260号の投稿論文について

総投稿数25本のうち、19本を受理、６本を不受理と決定した。

投稿論文の内訳は、現代文法12本（7)、方言文法２本（2)、現代音声１本（0)、歴史音韻２本(2)、語彙３本(3)、日中対照１本(1)、歴史文法２本（2)、言語接触１本（1)、方言音韻１本（1）であった［( ) の数字は受理した本数]。

受理した19本について、査読者各３名を決定した。

査読報告書の提出期限を5月6日（月）とし、5月18日（土）の第２回編集委員会において採否決定を行なうこととした。

３．2013年度学会奨励賞の候補者について

259号の掲載論文から、３本の予備候補を絞り、５月の第２回委員会で奨励賞候補を選出することとした。

４．日本学術振興会の助成申請に向けての執筆要領の変更について

日本学術振興会の「海外情報発信」に申請することを見据え、執筆要領の言語選択の部分について、「日本語A」パターンのサマリーを変更する案を検討した。

日本学術振興会への申請に関連して、特別編集委員枠の増加や、会誌に記載する体裁の修正（所属先を付す）などについて意見が出されたが、今後、継続して検討することとした。

５．海外特別編集委員の任期と人選について

海外特別編集委員について、今年度はメンバーの入れ替えを行なわず、全員留任して頂くこととした。また、任期については、現在の内規の通りで、変更しないこととした。

◆2013 年度第２回編集委員会(『中国語学』260 号)

日時：2012 年 5 月 18 日（土）13 時～18 時

場所：東京大学駒場キャンパス 18 号館メディアラボ２

出席者：小野秀樹（委員長)、石村広、佐々木勲人、朱春躍、沈力、中川裕三、中西裕樹、松江崇（以上、委員）

【報告事項】

１．『中国語学』260 号特集論文について

特集 3 本目の執筆者は、冯胜利教授（香港中文大学）のご推薦により、王丽娟教授（北京語言大学）に決定した。

【議事】

１．『中国語学』260 号投稿論文の採否について

受理した 19 本の投稿論文について、査読結果に基づいて審議した結果、３本を採用（歴史音韻 1、方言音韻 1、方言文法 1)、２本を要二次審査（現代文法 1、歴史文法 1)、14 本を不採用とした。要二次審査の２本は、７月１日（月）必着で修正論文の提出を求め、編集委員会において二次審査を行ない、掲載の可否を最終決定することとした。

２．2013 年度学会奨励賞候補者について

2013 年 3 月 20 日の第 1 回編集委員会で 3 本に絞った候補論文について討議をした結果、今回は該当者無しという結論に達した。

３．『中国語学』投稿規定・執筆要領の改訂について（学振への申請との関連で）

「執筆要領」の「１．使用言語」欄の改訂案として、日本語（A）のサマリーを、「日本語（冒頭）と中国語（末尾)」から、「中国語（冒頭）と英語（末尾)」に改訂し、すべての執筆言語パターンにおいて、英語のサマリーを要求することを理事会に提案することとした。

４．査読担当候補者について

261 号の編集に向けて、査読者名簿の確認を行ない、査読者候補の追加などについて検討した。

## ■ 大会運営委員会

委員：竹越孝（委員長)、于康、遠藤雅裕、大西博子、木津祐子、更科慎一、朱継征、丸尾誠、三木夏華、三宅登之、森宏子

［メール会議による審議］

A. 組織

(1) 委員会内に審査・編成・渉外を扱う小グループを設けて役割を分担した。

B. 今年度の大会について

(1) 第 63 回全国大会は東京外国語大学（東京都府中市）において 10 月 26 日（土)、27 日（日）に開催する。沈家煊氏（中国社会科学院語言研究所）による招待講演を予定している。

(2) 研究発表応募規定、ポスターセッションガイドライン、予稿集作成要領等の応募関係書類を策定し、ホームページに掲載した。応募期間は 5 月 31 日（金）より 6 月 17 日（月）までである。

(3) ワークショップの企画応募期間を 3 月 1 日（金）から 3 月 18 日（月）までとしたが、募集数（３部会程度）に満たなかったため、期間を 4 月 22 日（月）まで延長した。その結果、今年度は２つの部会により開催することとした。

(4) 若手会員を対象とした「講評付き発表」

はこれまで大会運営委員が司会の場合に限っていたが、その枠を拡大し、大会運営委員以外の司会が希望した場合にも講評できるようにする。

C. 来年度以降について

（1）ワークショップについては、海外研究者の招聘等で通常の研究発表よりも入念な準備が必要になるという理由から、これまで申込期限を 3 月中旬に設定していたが、来年度以降は申込期間を後方にずらし、将来的には通常の研究発表と同様の募集期間とする方向で検討したい。ワークショップの基本的な考え方については 2012 年 6 月のニューズレターを参照。会員諸氏の創意工夫によってこの枠が共同研究推進の一助となるよう、積極的な応募を期待している。

**■ ウェブリソース委員会**

・日常業務（ウェブサイトの更新、メルマガの配信など）

・『中国語学』目録構築作業中

**■辞典編纂委員会**

委員：平田昌司（委員長）、大西克也、小野秀樹、木津祐子、朱春躍、竹越孝、三宅登之、山崎直樹、楊凱栄

下記の日程で会議を開催：

関東会議：12 月 26 日（岩波書店）、4 月 23 日（東京大学駒場キャンパス）

関西会議：1 月 14 日（京都大学）、3 月 10 日（龍谷大学アヴァンティ響都ホール）

**■ 2013 年度第 1 回理事会**

日時：2013 年 5 月 19 日（日）14 時～17 時

場所：早稲田大学文学学術院第 10 会議室

出席者：古屋昭弘（会長）、太田斎（副会長）、大西克也、小野秀樹＊、佐藤富士雄、三宅登之、楊凱栄、依藤醇（以上理事）；竹越孝（大会運営委員長）、鈴木慎吾（ウェブリソース委員会委員長）；楊達、千葉謙悟（以上幹事）

＊編集委員会委員長を兼ねる

**【報告事項】**

1. 一般報告

1.1 役員・委員等の異動

・ウェブリソース委員交代：

澤田達也（大阪大）

→植屋高史（千葉大）

・ 評議員交代

関東支部：今井敬子（静岡大）

→埋田重夫（静岡大）

九州支部：千島英一（熊本大）

→甲斐勝二（福岡大）

1.2 会員動向（2013 年 4 月 1 日現在）

・会員数：

| | | | 増減 |
|---|---|---|---|
| 総会員数（賛助除く） | | 1197 名 | −27 |
| （内訳） | 顧問 | 5 名 | −1 |
| | 名誉会員 | 25 名 | 0 |
| | 通常会員 | 795 名 | −23 |
| | ネット | 273 名 | −3 |
| | 団体会員 | 9 名 | 0 |
| | 海外会員 | 90 名 | 0 |
| 賛助会員 | | 24 社 | 0 |

※増減は昨年 10 月 1 日を基準とした数。なお、厳密な意味での「通常会員」数は上の 795 名と 273 名を足した数すなわち 1068 名。2012 年度末退会者 25 人、除籍 25 人。

1.3 事務局の所在地について

［本部所在地］

〒162-8644　東京都新宿区戸山 1-24-1

早稲田大学文学学術院中国語中国文学研究室内　　日本中国語学会事務局

［会員関係］

〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入
中西印刷株式会社　学会部内
担当：国料尚子
Tel：075-415-3661　Fax：075-415-3662
E-mail：chilin@nacos.com

2. 支部例会関連

今年度の例会開催予定

・北海道（松江崇支部代表）：1 回
・関東（平井和之支部代表）：5 回
・北陸（大滝幸子支部代表）：1 回
・東海（丸尾誠会員）：　1 回
・関西（張黎支部代表）：　2 回
・中国（小川泰生会員）：　1 回
・九州（石汝傑支部代表）：　2 回

3. 大会運営委員会報告

竹越委員長より次の報告があった。

（1）2014 年度大会開催校

大阪大学（豊中キャンパス）に内定、開催校代表は鈴木慎吾会員、開催時期は 2014 年 11 月 15 日（土）、16 日（日）を予定している。

（2）2013 年度大会ワークショップ企画

今年度は応募期間内の申込が募集数に満たなかったため、期限を１ヵ月程度延長し、結果的に以下の２つの部会で行うことになった。

（一）「指称の範疇化と「存在」の問題をめぐる考察―歴史文法の観点から―」

企画：大西克也会員、司会：中川正之会員

発表：大西克也「『史記』と『世説新語』を中心に／指称範疇化への胎動」、松江崇「唐五代資料を中心に／指称範疇の生成」、木津祐子「『朱子語類』を中心に／指称範疇の展開」、木村英樹「‘referentiality’と‘reality’――モノ・サマ・コトの現実性と有標化をめぐる問題」

（二）「网上现代汉语词典的建构与对汉语教学研究的贡献」

企画・司会：望月圭子会员

发表：詹卫东「现代汉语构式知识库的设计与实现：以表量构式为例」、砂岡和子「关于汉语动词补语用法的网上词典的设计」、望月圭子「如何根据汉语中介语料来建构一个网上汉语偏误词典」、福田翔（東京外国語大学）・彭筱雯（東京大学・院）「汉语中介语料里的日本学习者的偏误类型」

4. 編集委員会報告

小野委員長より以下の諸点について報告があった。

a.　『中国語学』260 号査読結果

受理した投稿論文 19 本について、査読報告書に基づき採否の判定を行い、3 本を採用、2 本を要二次審査、14 本を不採用とした。

b.　『中国語学』260 号特集について

テーマを「韻律語法学」とし、冯胜利教授（香港中文大学）、吴为善教授（上海師範大学）、王丽娟教授（北京語言大学）に執筆を依頼。

c.　学会奨励賞候補者推薦について

2013 年 3 月 20 日の第 1 回編集委員会で３本に絞った候補論文について討議をした結果、今回は該当者無しという結論に達した。

d.　海外特別編集委員の任期と人選について

2013 年度については入れ替えを行わないということにした。

5. ウェブリソース委員会報告

鈴木委員長より、JST(科学技術振興機構)による中国語学電子化計画の生データが届いた（本文以外の部分も含む。2008 年まで）こと、現在その活用法を検討中であること

についての報告があった。

6. 辞典編纂委員会

平田委員長の代理として三宅理事より、歴史分野については執筆予定者の内諾をほぼ得ていること、現代文法分野については執筆者と項目の割り当て原案を作成し、これから依頼することが報告された。

**【審議事項】**

1. 学会奨励賞の授賞について

・今回該当者無しということについて承認。

2. 次期大会について

・2014 年の大会開催校については、内諾のあった大阪大学に依頼することを承認。

3. 『中国語学』執筆要領の改訂について

・以下の改訂について承認。

執筆要領１．使用言語日本語（A）のサマリーを「日本語（冒頭）と中国語（末尾）」から「中国語（冒頭）と英語（末尾）」に改訂、すべての言語パターンにおいて、英語のサマリーを要求する。

・形式不備による不受理が多いことから、今後様々な機会に注意を喚起すること、『中国語学』投稿のためのテンプレートを作る方向が数名の理事から提案され、できれば次回 261 号から対応できるよう、執筆要領の改訂も含め、編集委員会で検討してもらうことが了承された。

4. 著作権規定制定について

・大西理事より著作権規定原案の提示と詳しい説明があり、リポジトリ公開までの期間を 3 年とすることを含め、審議・承認された。

5. 名誉会員の推挙について

・推挙のお願いをニューズレターに掲載することを確認。

6. 科研費申請について

・今年度は、『中国語学』のサマリーに必ず英文のものを加えることを前提に研究成果公開促進費の申請をすることが提案された。

## 全国大会および例会開催のお知らせ

### 第 63 回全国大会開催のお知らせ

すでに学会ウェブサイトでご案内しておりますとおり、今年度の大会は東京外国語大学にて 10 月 26 日（土）～27 日（日）の日程で開催されます。ふるってご参加下さいますようお願い申し上げます。なお発表申し込み期間は終了しました。発表者については同封のプログラムあるいは学会ウェブサイトをご覧ください。

### 今年度の例会実施予定

各支部の今後の例会実施予定は次のようになっております。

北海道支部：1 回（2014 年 3 月予定）
関東支部：2 回（11 月 16 日、2014 年 3 月）
東海支部：1 回（11 月 30 日）
北陸支部：1 回（2014 年 2 月か 3 月）
関西支部：1 回（12 月 8 日）
中国支部：1 回（10 月 20 日）
九州支部：1 回（12 月中旬）

発表者、参会者ともに歓迎いたします。ただし、開催時期および回数は変更になることもございますので、ご了承ください。開催予定、申込締切、連絡方法などにつきましては学会ウェブサイトでご確認ください。発表者の方には発表要旨（300 字以内）の事前提出をお願いしておりますので、よろしくお願いいたします。この要旨は本会ウェブサイト上の例会案内のページでご紹介しております。なお、開催に関する詳細は、各支部例会担当者までお問い合わせ下さい。（事務局）

## 選挙公示

2013 年 10 月 26 日（土）、第 63 回全国大会会場（東京外国語大学）において、日本中国語学会「会長及び理事選出方法に関する内規（会則第 10 条関連）」に基づき理事の選挙を行ないます。選挙は専用の投票用紙によって４名連記で投票し、即日開票の上、得票数上位８名を候補者とし、そのうち最高得票者を会長、その他の７名を理事の当選者とするものです。被選挙人名簿は、10 月初旬までに学会ウェブサイトに掲示するとともに、当日、大会会場受付にて、投票用紙とともに配布いたします。

選挙管理委員会委員

依藤醇（委員長）、秋谷裕幸、加藤晴子、楊達

## 事務局からのお願いとお知らせ

**■ 名誉会員の推挙について**

名誉会員のご推挙は、9 月 30 日までに、推薦文を添えて事務局宛にお願いいたします。なお、名誉会員号授与の条件は、年齢満 70 歳以上で継続して 20 年以上本会会員であった方のうち、本会の発展に功労のあった方となっており、評議会の審議を経た上で会員総会において決定されます。

**■ 住所不明の会員**

お知り合いの方がおられましたら、事務局までご連絡をお願いいたします。

王 蓓淳、海 暁芳、栗田 眞希江、呉 睿純、高 正姫、高 立偉、朱 迪、張 睿、陳 愛佳、陳 昌柏、杜 暉、房 志新、李 穎麗、劉 金子

**■ 2013 年度会費納入のお願い**

さきにお送りした請求のご案内の通り、本年度会費（一般会員6,000円、ネット会員5,000円）を最寄りの郵便局からお振込下さい。

郵便振替　加入者名：日本中国語学会

口座番号：00120-2-536256

なお、これまでの会費を未納の方は請求のご案内に記載してありますので、一括してご入金下さいますようお願いします。もし記載請求金額が15,000円以上となっておりましたら、今年度ご入金いただけませんと、会則《会費納入に関る内規》により除籍となりますのでご注意ください。なお除籍者名はニューズレター上で公表されます。

**■ 予稿集の販売**

過去の大会予稿集は好文出版にてお求めになれます。第53、55回は1,500円、第56-62回は2,000円となっております。詳しくは学会ウェブサイトをご覧下さい。在庫につきましては好文出版（order@kohbun.co.jp）に直接お問い合わせ下さい。

**■ 事務局の連絡先　2014 年 3 月まで**

事務局への郵便物は、
〒162-8644
東京都新宿区戸山 1-24-1
早稲田大学文学学術院中国語中国文学研究室
日本中国語学会事務局宛
へお願い致します。また各種お問い合わせは、学会ウェブサイト（http://www.chilin.jp/）内の「お問い合わせ」ページをご利用ください。

**日本中国語学会々報　2013 年夏季**
（年二回発行）
発行者：日本中国語学会事務局
〒162-8644
東京都新宿区戸山 1-24-1
早稲田大学文学学術院
中国語中国文学研究室内
E-mail: jimukyok@chilin.jp
URL: http://www.chilin.jp/
発行日：2013 年 8 月 31 日